

【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材の活用方法について

1. 演習教材作成の目的

- ・ 本演習教材は、令和6年度老人保健健康増進等事業「福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの適切な実施に向けた調査研究事業」において作成した「福祉用具専門相談員指定講習 指導要領」に基づき、より効果的な演習を実施いただくための教材として作成したものです。
- ・ 住環境と住宅改修の科目は、令和7年4月に周知されたカリキュラムから、講義に加えて演習が新たに追加されました。
- ・ この演習は、住まいにおける課題(目的)について、利用者情報をもとに提案されたイラストの住環境整備による解決策(案)に対し、①目的、②利用者、③介護者、④住環境、⑤福祉用具の各視点からどのような確認事項が必要となるかを受講者同士が活発に検討・協議し合い、お互いの気づきを共有することで、受講者が福祉用具専門相談員として住環境整備を検討するうえで、どのような視点を持つことが重要になるかを学ぶことが目的となります。

※演習を実施するうえでは、アセスメントの重要性に加え、利用者に関わる多職種との連携の必要性についても併せて理解を促してください。

- ・ 指導要領に基づく演習を実施いただくにあたり、是非、本演習教材をご活用ください。

2. 演習教材の内容

- ・ 住環境と住宅改修における演習教材として以下の資料を準備しています。
各資料の使い方は、「3. 演習教材を使った演習の進め方」をご参照ください。

住環境と住宅改修 演習教材一式

練習事例	住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート記載例）
演習事例1	【玄関】転倒なく一人で外出したい。夫に負担をかけたくない。 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート） 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）
演習事例2	【屋内】車いすを利用し、一人で屋内を移動できるようにしたい。 夫に負担をかけたくない。 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート） 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）
演習事例3	【屋外】車いすで通院や散歩などができるようにしたい。 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート） 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）
演習事例4	【トイレ】トイレでの排泄が一人でもできるようになりたい。 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート） 住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例） 【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）

3. 演習教材を使った演習の進め方

- ・複数の演習事例をご用意しておりますが、科目の時間は限られておりますので、いずれかの事例を選択いただきご活用ください。
- ・演習の進め方は指導要領の「3.5.住環境と住宅改修」(9)講義・演習の進め方を1例としてご紹介します。

演習方法例	配布資料・指導内容例
演習方法の説明	・「練習事例」を配布 ・ワークシートの構成、各視点からの確認事項を説明 ・検討結果の記載方法・内容について説明
個人ワーク	・「演習事例1～4」いずれかのワークシートを配布 ・「練習事例」を踏まえて受講者個人での確認事項の発想を促す (確認事項は講師用解説例の「演習における指導の視点」を参考にする)
グループワーク	・個人ワークで検討した内容をグループで共有する ・受講者同士で確認事項を共有する
発表・まとめ	・グループの中から代表者を決め、全体に向けて発表する ・講師は講師用解説例の「事例の解説例」を基に、各発表の講評をする ・最後に解答例を配布し、講師が解説をする

4. 演習を通じて受講者に理解いただきたい点

- ・本演習を通じ、受講者の方に理解いただきたい点は、指導要領の「3.5.住環境と住宅改修」(11)確認ポイントとして示されている以下のとおりです。

☐ 日本家屋の特徴や高齢者の住まいについての課題が理解できている ☐ 生活場面ごとの整備のポイントが理解できている ☐ 介護保険制度での住宅改修が理解できている ☐ 住まいの課題を解決することで、自立支援や介護負担軽減につながっていることが理解できている
--

- ・住環境整備においては以下の視点を踏まえた検討が必要であることから、これらの視点を意識した指導を実施いただき、受講者の理解を促してください。

※ 介護保険における福祉用具の選定の判断基準（令和6年7月厚生労働省老健局高齢者支援課）より抜粋

気づきの視点	具体的な視pointsの例
①利用目的	要介護者等や家族の思い、希望する生活 等
②利用者	要介護者等の希望、心身の状況・変化 等
③介護者	介護力、介護技術 等
④住環境	住宅の構造、生活動線 等
⑤他の福祉用具	複数の用具を使用する場合の動作や生活の流れ 等

以上

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：記載例）

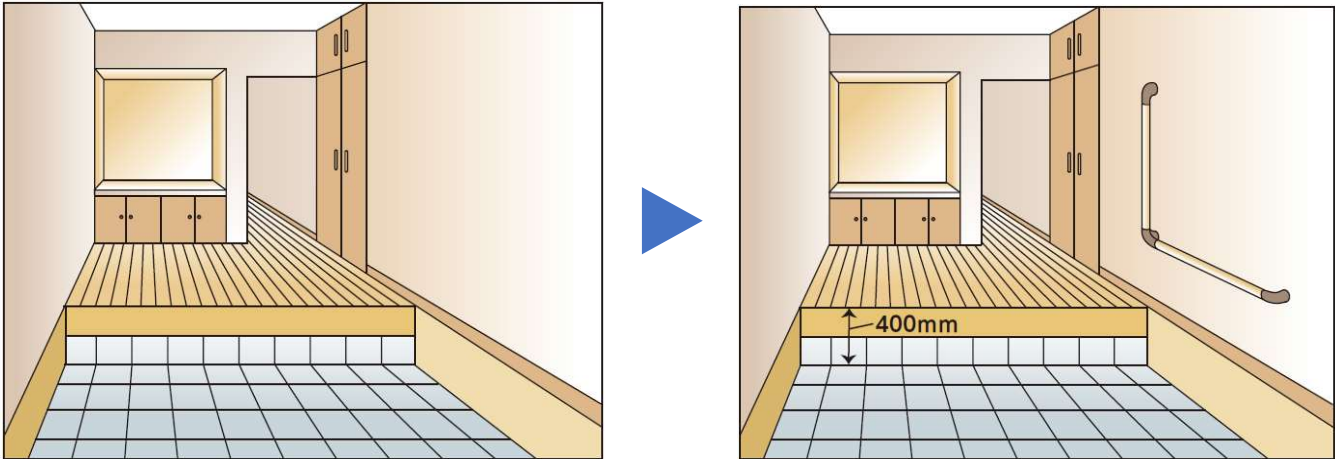
【玄関の住環境整備】

課題(目的)：玄関の出入りを一人で不安なく出来るようになりたい。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・ 下肢の筋力低下によりふらつきがある ・ 転倒の危険性がある ・ 要支援 1	
家族構成	83歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	一本杖	

解決策(案)【L字型手すりを提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	・ 玄関の出入りを不安なく一人で行えるか。 ⇒ 外の駐車場や花壇など、屋外へ一人で安全に出入りすることが可能か。
②利用者 (心と身体の状態等)	・ 下肢筋力低下によるふらつきがあるが、上がり框の昇降が不安や転倒なく出来るか。 - また身体能力を考えた場合に昇降動作は安全か。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・ 介護する夫の負担感はないか。また夫の生活上に問題ないか。
④住環境 (住まいの状態等)	・ 手すり設置の下地は問題ないか。 - また昇降時にフローリングの滑り等は問題ないか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・ 現在利用している一本杖は、玄関上がり框の昇降に問題ないか。

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート）

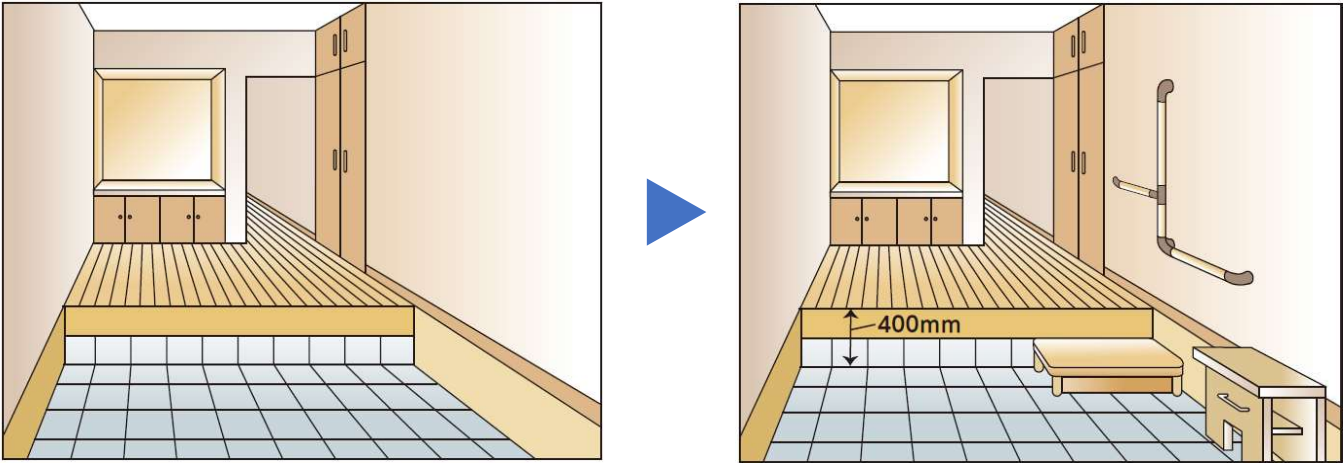
【玄関の住環境整備】

課題(目的)：転倒なく一人で外出したい。夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・ 両変形性膝関節症 ・ 要介護 1	
家族構成	83歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	屋内：一本杖 屋外：歩行車	

解決策(案)【横手すり＋L字型手すり、玄関台、椅子を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	
②利用者 (心と身体の状態等)	
③介護者・他家族 (介護の状況等)	
④住環境 (住まいの状態等)	
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例）

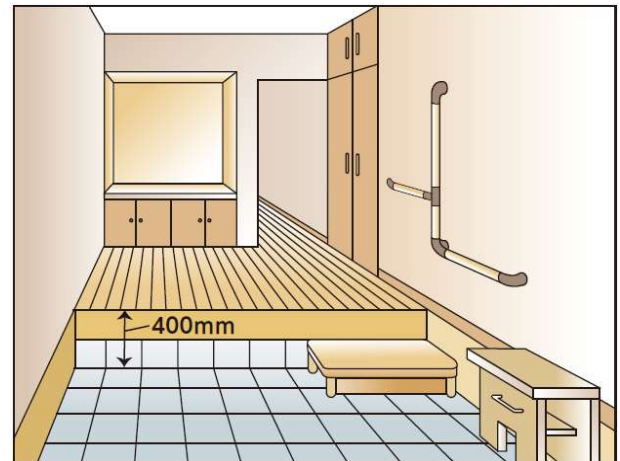
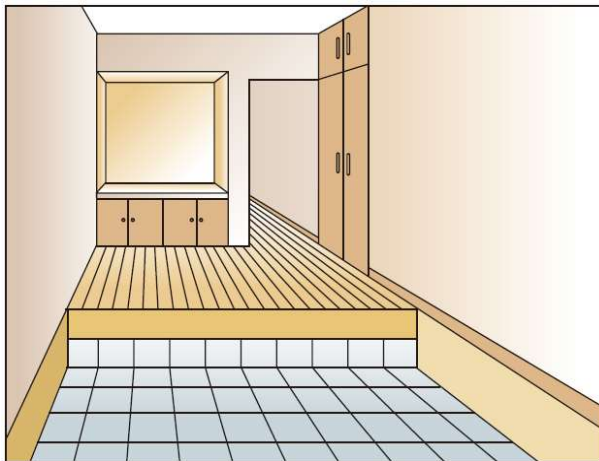
【玄関の住環境整備】

課題(目的)：転倒なく一人で外出したい。夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・両変形性膝関節症 ・要介護 1	
家族構成	83歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	屋内：一本杖 屋外：歩行車	

解決策(案)【横手すり＋L字型手すり、玄関台、椅子を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	・転倒なく外出を一人で行えるか。 ⇒夫の介助に頼ることなく、一人で安全に玄関上がり框の昇降及び外出動作が可能か。
②利用者 (心と身体の状態等)	・屋内移動、上がり框の昇降、屋外移動は、両変形性膝関節症による膝の痛みの影響なく一人で安全にできるか。 ・椅子を使つての靴の着脱動作は両変形性膝関節症による膝の痛みの影響なく安全にできるか。また椅子からの立ち座り動作は問題ないか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・介護する夫の負担感はないか。また夫の生活上に問題ないか。 ・利用者の昇降時の邪魔にならないように、夫の靴も日常的に整理してもらう等の必要はないか。
④住環境 (住まいの状態等)	・手すり設置の下地や玄関台の固定は問題ないか。 また玄関上がり框の昇降及び外出動作を行うにあたり、手すりや玄関台に問題ないか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・現在使用している一本杖は玄関上がり框の昇降に問題ないか。 また屋外用の歩行車の置き場所はどこになるか。

【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）

【玄関の住環境整備】

課題（目的）：転倒なく一人で外出したい。夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・両変形性膝関節症 ・要介護 1	
家族構成	83歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	屋内：一本杖 屋外：歩行車	

演習における指導の視点

- 講師は、課題(目的)に対する解説策(案)について、受講者が以下の各視点からの確認事項を発想できるように促してください。
- 受講者が検討した各視点の確認事項を発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

視点	確認事項の発想を促す指導例
①目的 (利用者の目的等)	・夫に負担をかけたくないという利用者の気持ち(目的)を理解し、一人で安全に外出動作を行える住環境整備がされているかを確認できるか。
②利用者 (心と身体の状態等)	・両変形性膝関節症の利用者が、一連の外出動作を安全に行うにはどのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。また靴の着脱動作も含めて確認できるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・夫も高齢であるため、介護負担を軽減するには利用者が一人で移動動作を行う必要があることを確認できるか。またその住環境整備が夫の生活に支障ないかを確認できるか。 ・利用者が一人で移動動作を行うには、夫からどのような協力が必要かを確認できるか。
④住環境 (住まいの状態等)	・手すりや椅子の取付にあたり、壁下地などの強度が重要になることを確認できるか。 ・400mmの上がり框の昇降の際に、膝の痛みの影響なく安全に動作を行うにはどのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・住環境整備により、玄関上がり框昇降及び外出動作を行う際の一本杖の使用がどのようになるかを確認できるか。 ・玄関から歩行器までの移動は安全に行えるかを確認できるか。

事例の解説例

- ・健常者が普段当たり前に行っている動作であっても、高齢者にとっては大きな負担となり、転倒の危険につながる場合があります。転倒による骨折は高齢者が寝たきりになる要因であり、廃用症候群のきっかけになります。また、一度転倒を経験すると、不安から外出を控えるなど生活の不活発化にも繋がっていきます。不安なく外出できる住環境整備は、利用者の生活活動の維持向上を図るうえで非常に重要です。
- ・両変形性膝関節症は膝関節の軟骨がすり減ったり、破壊されたりすることで、膝の動きが制限されたり、痛みが生じたりする病気です。症状としては、膝の痛み、腫れ、こわばり、歩きにくさなどがあり、進行すると日常生活にも支障をきたすことがあります。禁忌事項や痛みの有無などの情報をリハビリテーション専門職等から事前に収集したり、一緒に住環境整備の検討を行うことも大切です。

※本事例を通じて、科目「からだところの理解」における医療に関する基礎知識や、科目「リハビリテーション」におけるリハビリテーション専門職との連携に関する知識について振り返り、理解を深めておきましょう。

※現場では今回のように「課題」に対する解決策の案について、それぞれの視点から一つでも不具合が見つければ、解決策の案を追加・変更することになります。

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート）

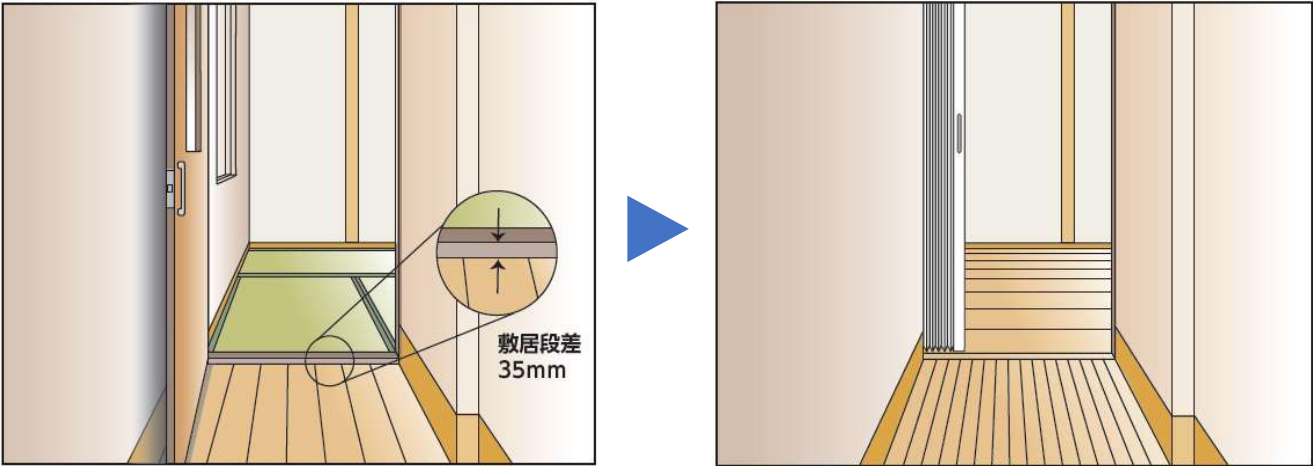
【屋内の住環境整備】

課題(目的)： 車いすを利用し、一人で屋内を移動できるようにしたい。
夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	72歳 女性	
疾病/身体状況	・ 閉塞性動脈硬化症 要介護3 歩行はできない ・ 屋内は概ね車いすで移動できている ・ 段差乗り越えは夫が一部介助している	
家族構成	75歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	自走式車いす	

解決策(案)【廊下床嵩上げ、引き戸への交換、寝室床張替を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	
②利用者 (心と身体の状態等)	
③介護者・他家族 (介護の状況等)	
④住環境 (住まいの状態等)	
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例）

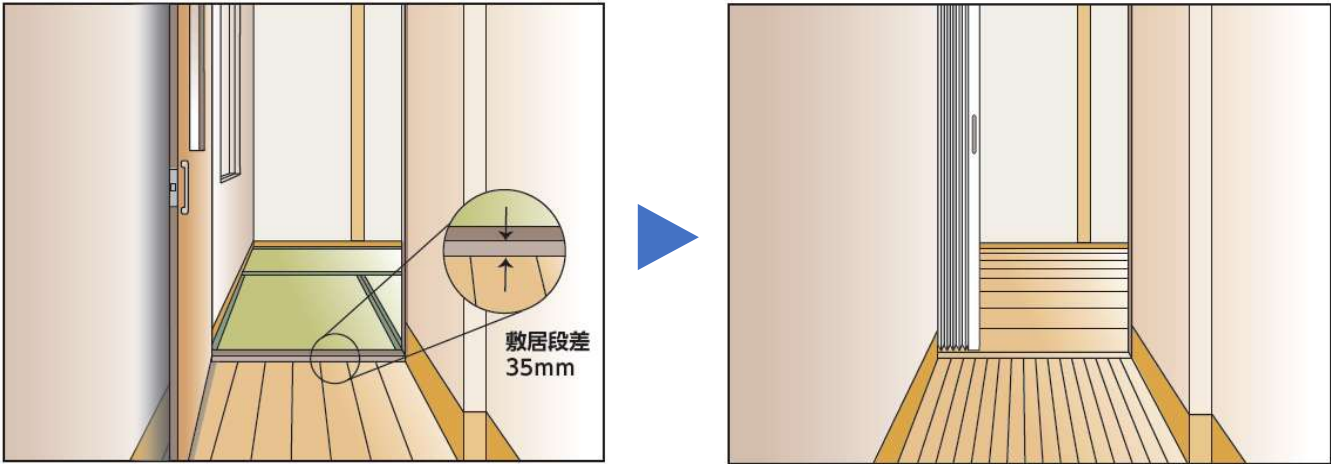
【屋内の住環境整備】

課題(目的)： 車いすを利用し、一人で屋内を移動できるようにしたい。
夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	72歳 女性	
疾病/身体状況	・ 閉塞性動脈硬化症 要介護3 歩行はできない ・ 屋内は概ね車いすで移動できている ・ 段差乗り越えは夫が一部介助している	
家族構成	75歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	自走式車いす	

解決策(案)【廊下床嵩上げ、引き戸への交換、寝室床張替を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	・ 屋内の車いす移動が一人で行えるか。 ⇒ 夫の介助に頼ることなく、一人で安全に屋内の車いす移動が可能か。
②利用者 (心と身体の状態等)	・ 屋内移動の車いす操作は、閉塞性動脈硬化症による下肢の痛みやしびれが発生した時にも一人で安全に行えるか。また、移乗動作は一人で安全に行えるか。 ・ これまで夫の介助を受けていた廊下と寝室の移動に問題ないか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・ 介護する夫の負担感はないか。また夫の生活上に問題ないか。 ・ 利用者の車いす移動の邪魔にならず、足を傷つけないように通路を日常的に整理してもらう必要はないか。
④住環境 (住まいの状態等)	・ 廊下床嵩上げにあたり、寝室以外の他の部屋の扉と干渉するなどの問題はないか。 ・ 廊下床の嵩上げ、引き戸への交換、寝室床の張替は、円滑な屋内移動に問題ないか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・ 現在使用している車いすの機種は、屋内移動に問題ないか。 また、移乗動作時に問題ないか。

【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）

【屋内の住環境整備】

課題（目的）： 車いすを利用し、一人で屋内を移動できるようにしたい。
夫に負担をかけたくない。

利用者情報

年齢／性別	72歳 女性	
疾病／身体状況	- 閉塞性動脈硬化症 要介護3 歩行はできない - 屋内移動は概ね車いすで移動できている - 段差乗り越えは夫が一部介助している	
家族構成	75歳の夫と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	自走式車いす	

演習における指導の視点

○講師は、課題(目的)に対する解説策(案)について、受講者が以下の各視点からの確認事項を発想できるように促してください。

○受講者が検討した各視点の確認事項を発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

視点	確認事項の発想を促す指導例
①目的 (利用者の目的等)	・日常的に夫に介助をお願いしなければならない利用者の気持ち(目的)を理解し、一人で安全に屋内の車いす移動を行える住環境整備がされていることを確認できるか。
②利用者 (心と身体の状態等)	- 閉塞性動脈硬化症という身体状況に対して、屋内移動時に一人で安全な車いす操作を行うためには、どのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。 - 閉塞性動脈硬化症による下肢の痛みやしびれが発生した時にも、安全に車いす移動が行えるかを確認できるか。また、移乗動作が安全に行えることを確認できるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	- 夫も高齢であるため、介護負担を軽減するには利用者が一人で移動動作を行う必要があることを確認できるか。またその住環境整備が夫の生活に支障ないかを確認できるか。 - 利用者が一人で足を傷つけることなく移動動作を行うには、夫からどのような協力が必要か確認できるか。
④住環境 (住まいの状態等)	- 廊下の床嵩上げをすることで、他の部屋にどのような影響を生じるかを確認できるか。 - 安全な車いす移動を行うには、廊下から寝室にどのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・住環境整備により、屋内移動を行う際の車いす操作がどのように変化するかを確認できるか。また、足を傷つけることなく移乗動作が行えるかを確認できるか。

事例の解説例

- ・床全体の嵩上げによる段差解消は、車いす移動には非常に効果的な方法です。スロープによる敷居段差の解消は、利用者によっては想像以上に負担が大きく、車いすでの乗り越えできない場合もありますので注意が必要となります。実際の住宅改修でスロープによる敷居段差解消を検討する際は、例えばレンタル用の車いすとスロープを活用しながら疑似的な環境を再現し、実際に利用者が昇降出来るかどうかをシミュレーションしてみることが重要です。
- ・介護保険における住宅改修で敷居の段差解消を行う場合には、床全体を嵩上げをする、スロープを取り付ける、可能な場合は敷居を撤去するといった方法がありますが、住宅改修以外では介護保険で貸与する方法と販売する方法があります。生活する上での使い勝手や工事費用、身体にかかる負担の度合いなどに考慮し、それぞれの方法の違いを説明し、利用者自身に選んでいただけるよう提案することが求められることを理解しましょう。

※科目「介護保険制度等の考え方と仕組み」の介護サービスの種類と、科目「福祉用具の供給の仕組み」の福祉用具貸与・販売の選択性対象種目への対応を学んだ後に、再度本演習事例を振り返り、介護保険制度における福祉用具サービスについて理解を深めておきましょう。

※現場では今回のように「課題」に対する解決策の案について、それぞれの視点から一つでも不具合が見つければ、解決策の案を追加・変更することになります。

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート）

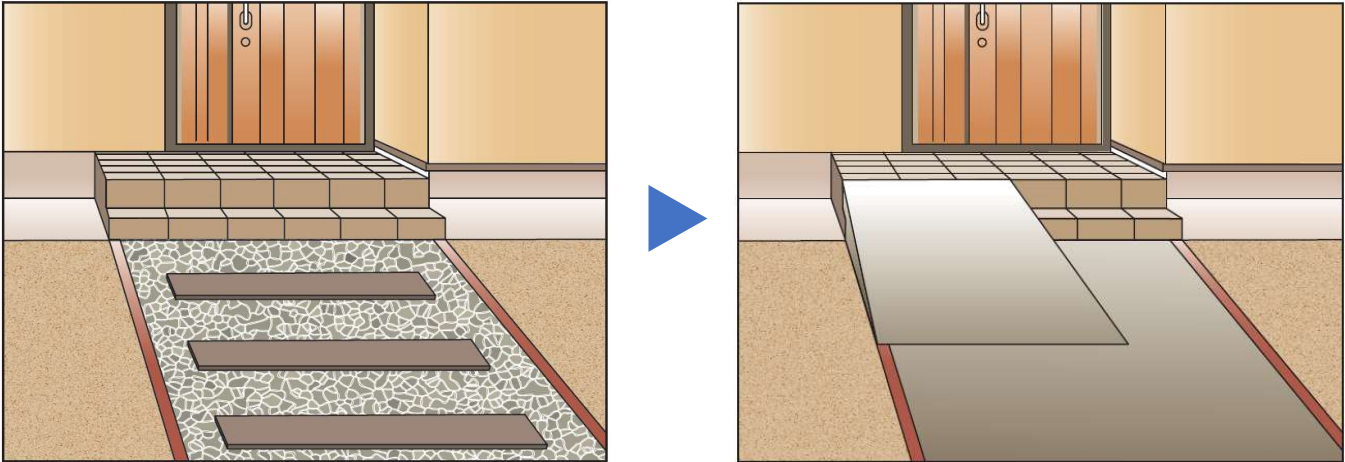
【屋外の住環境整備】

課題(目的)：車いすで通院や散歩などができるようにしたい。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・ 左大腿骨頸部骨折 ・ 要介護 4 ・ 屋内外ともに車いす介助により移動	
家族構成	息子宅で息子家族と同居（主介護者は息子の妻）	
現在利用している福祉用具	介助式車いす	

解決策(案)【屋外スロープ、外部通路整備を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	
②利用者 (心と身体の状態等)	
③介護者・他家族 (介護の状況等)	
④住環境 (住まいの状態等)	
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例）

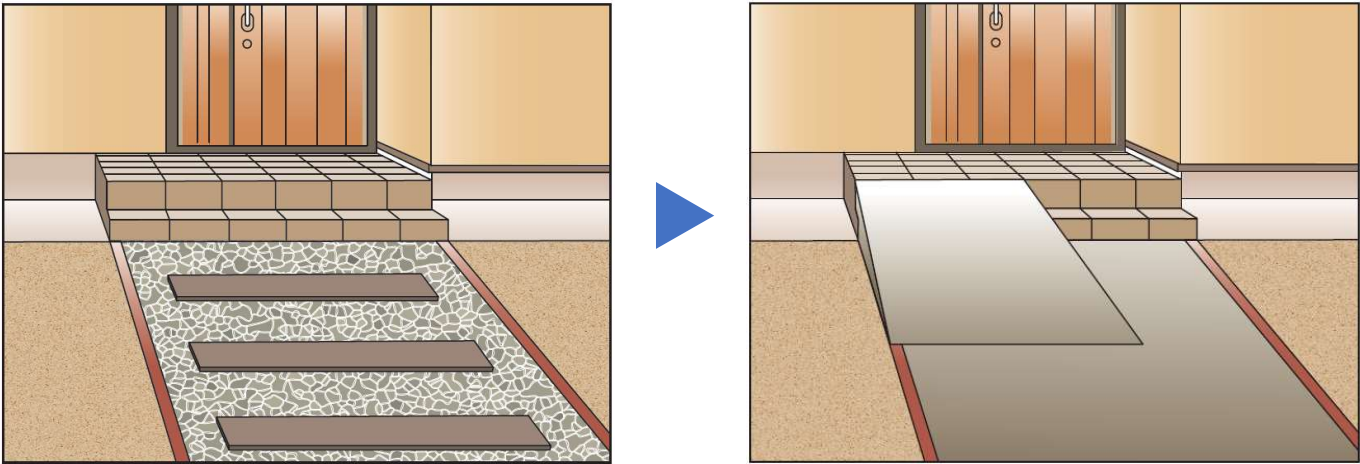
【屋外の住環境整備】

課題(目的)：車いすで通院や散歩などができるようにしたい。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・ 左大腿骨頸部骨折 ・ 要介護 4 ・ 屋内外ともに車いす介助により移動	
家族構成	息子宅で息子家族と同居（主介護者は息子の妻）	
現在利用している福祉用具	介助式車いす	

解決策(案)【屋外スロープ、外部通路整備を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	・ 介護者による車いす移動により外出が行えるか。 ⇒ 介助者が安全に車いす操作を行って、屋外移動が可能か。
②利用者 (心と身体の状態等)	・ 外出の際の車いす移動は、左大腿骨頸部骨折による足の痛みなく行えるか。 ・ 利用者が長時間車いすに座ることについて問題ないか。 また移乗動作は、左大腿骨頸部骨折による足の痛みや脱臼リスクなく行えるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・ 介助者がスロープ、外部通路で車いす操作を安全に行えるか。 ・ 同居息子家族の生活上に問題ないか。小学生の孫にとって危険となる部分はないか。 ・ 移乗介助は、利用者の左大腿骨頸部骨折による足の痛みや脱臼リスクなく行えるか。
④住環境 (住まいの状態等)	・ 屋外のスロープや外部通路の整備は問題ないか。 ・ スロープの勾配は問題ないか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・ 現在使用している車いすの機種は、屋外スロープの移動や移乗の介助に問題ないか。 ・ 現在使用している車いすの機種は、利用者が長時間座ることについて問題ないか。

【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）

【屋外の住環境整備】

課題（目的）：車いすで通院や散歩などができるようにしたい。

利用者情報

年齢／性別	80歳 女性	
疾病/身体状況	・左大腿骨頸部骨折 ・要介護4 ・屋内外ともに車いす介助により移動	
家族構成	息子宅で息子家族と同居（主介護者は息子の妻）	
現在利用している福祉用具	介助式車いす	

演習における指導の視点

○講師は、課題(目的)に対する解説策(案)について、受講者が以下の各視点からの確認事項を発想できるように促してください。

○受講者が検討した各視点の確認事項を発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

視点	確認事項の発想を促す指導例
①目的 (利用者の目的等)	・利用者を外出に連れていきたいという介護者の気持ち(目的)を理解し、介護者が安全に車いすで外出を行える住環境整備がされているかを確認できるか。
②利用者 (心と身体の状態等)	・利用者的大腿骨頸部骨折という身体状況に対して、外出時の車いす移動にかかる下肢の痛みがどのようになるかを確認できるか。 ・車いすの移乗時に、足の痛みや脱臼リスクがあるかを確認できるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・外出時に介護者が安全に車いす介助を行うには、どのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。またその住環境整備が息子家族の生活に支障ないかを確認できるか。 小学生の孫が遊んで、事故につながる可能性があるかを確認できるか。 ・利用者的大腿骨頸部骨折による足の痛みや脱臼リスクなく移乗介助が行えるかを確認できるか。
④住環境 (住まいの状態等)	・玄関段差や外部通路の車いす移動を安全に行うには、どのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。 ・スロープ工事において、勾配が重要な要素であることを確認できるか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・住環境整備により、外出時の移動の際の利用者および介護者の立場から車いすの使用がどのようになるかを確認できるか。 ・車いすの利用機会が増えても、移乗介助が安全に行えるかを確認できるか。

事例の解説例

- ・スロープによる段差解消を検討する場合に、利用者自身が車いすを自走し昇降するのか、介助者が車いすを押すのかなど、様々な条件に応じながら最適なスロープの長さ（適した勾配）を慎重に検討する必要があります。実際の住宅改修では、例えばレンタル用のスロープを活用し疑似的に再現した環境でシミュレーションし、スロープの昇降が出来るかどうか、どの程度負担が生じるかなど、利用者や介護者に具体的なイメージを持ってもらうことも大切です。また住宅改修に頼らなくても、福祉用具の活用によって住宅改修と同じ目的を達成できる場合もあります。長めのスロープをレンタルするといったように、代替的な案を検討するなどの対応も必要となります。
- ・住宅改修は、高齢者本人の日常生活の自立度と利便性を高めることが最大の目的であり、介護者の介護負担軽減にも大きな効果をもたらします。しかし、利用者の身体機能状況から必要性が高い住宅改修でも、同居する家族にとっては使い勝手が悪くなることや、家屋自体に手を加える改修自体を望まない利用者や家族もいます。利用者だけではなく、同居する家族全員の価値観を尊重しながら、住宅改修を提案することと、全員の了解を取り付けたうえで住宅改修を行うことが大切です。

※現場では今回のように「課題」に対する解決策の案について、それぞれの視点から一つでも不具合が見つければ、解決策の案を追加・変更することになります。

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：ワークシート）

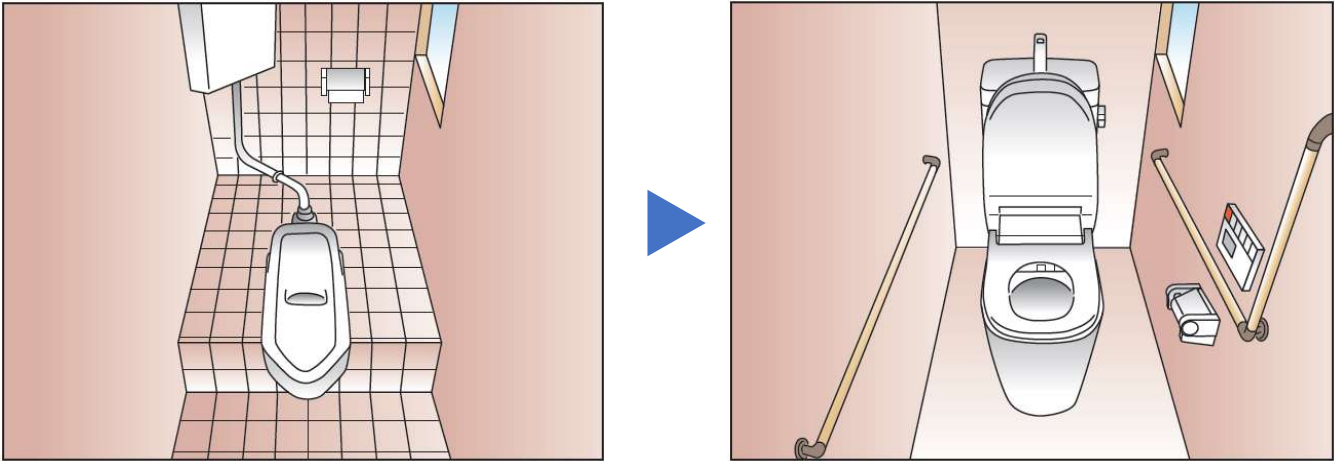
【トイレの住環境整備】

課題(目的)：トイレでの排泄が一人でもできるようになりたい。

利用者情報

年齢／性別	67歳 男性	
疾病/身体状況	・脳梗塞後遺症による右上下肢麻痺 要介護3 ・短距離は手すりや一本杖を使用し歩行移動が可能 ・現在はポータブルトイレを使用（妻の一部介助あり）	
家族構成	65歳の妻と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	一本杖・ポータブルトイレ	

解決策(案)【横手すり、L字型手すり、洋式便器への取替を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	
②利用者 (心と身体の状態等)	
③介護者・他家族 (介護の状況等)	
④住環境 (住まいの状態等)	
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	

住環境と住宅改修 演習教材（受講者用：解答例）

【トイレの住環境整備】

課題(目的)：トイレでの排泄が一人でもできるようになりたい。

利用者情報

年齢／性別	67歳 男性	
疾病/身体状況	・脳梗塞後遺症による右上下肢麻痺 要介護3 ・短距離は手すりや一本杖を使用し歩行移動が可能 ・現在はポータブルトイレを使用（妻の一部介助あり）	
家族構成	65歳の妻と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	一本杖・ポータブルトイレ	

解決策(案)【横手すり、L字型手すり、洋式便器への取替を提案した場合】



検討内容

上記の課題に対する解決策(案)について、それぞれの視点からの確認事項を検討しましょう。

視点	確認事項
①目的 (利用者の目的等)	・トイレでの排泄動作を一人で行えるか。 ⇒妻の介助に頼ることなく、安全にトイレ内移動、便器への立ち座り動作等が可能か。
②利用者 (心と身体の状態等)	・屋内移動、トイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作は、右上下肢麻痺によりバランス機能が低下しているが、一人で安全にできるか。 ・排泄の後始末は、一人で安全にできるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・介護する妻の負担感はないか。また利用者がトイレでの排泄動作を安全に行えるよう、通路やトイレ内を日常的に整理してもらう必要はないか。 ・利用者がトイレへの移動が困難な場合は、妻に介助してもらう必要はないか。
④住環境 (住まいの状態等)	・手すり設置の下地の固定や洋式便器への交換は問題ないか。 ・トイレ内移動や便器への立ち座り動作に使用する手すりの配置や便座高に問題ないか。 ・排泄の後始末を行うためにウォシュレットは必要はないか。 またリモコン取付位置に問題ないか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・トイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作時に、現在使用している一本杖の置き場所はどこになるか。また、ポータブルトイレの使用はどうか。

【講師用】 住環境と住宅改修 演習教材（解説例）

【トイレの住環境整備】

課題（目的）：トイレでの排泄が一人でもできるようになりたい。

利用者情報

年齢／性別	67歳 男性	
疾病/身体状況	・脳梗塞後遺症による右上下肢麻痺 要介護3 ・短距離は手すりや一本杖を使用し歩行移動が可能 ・現在はポータブルトイレを使用（妻の一部介助あり）	
家族構成	65歳の妻と二人暮らし	
現在利用している福祉用具	一本杖・ポータブルトイレ	

演習における指導の視点

- 講師は、課題(目的)に対する解説策(案)について、受講者が以下の各視点からの確認事項を発想できるように促してください。
- 受講者が検討した各視点の確認事項を発表しあうことで、受講者同士がお互いの気づきについて共有できるようにしてください。

視点	確認事項の発想を促す指導例
①目的 (利用者の目的等)	・一人で排泄動作ができるようになりたいという利用者の気持ち(目的)を理解し、一人で安全にトイレ内移動、便器への立ち座り動作等を行える住環境整備がされているかを確認できるか。
②利用者 (心と身体の状態等)	・右側上下肢麻痺の身体状況に対して、トイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作等を安全に行うには どのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。 また排泄の後始末も含めて確認できるか。
③介護者・他家族 (介護の状況等)	・妻の介護負担を軽減するには、利用者が一人でトイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作等を行う必要があることを確認できるか。 ・利用者が一人でトイレでの排泄動作を行うには、妻からどのような協力が必要となるかを確認できるか。
④住環境 (住まいの状態等)	・右上下肢麻痺の方がトイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作を安全に行うには、どのような住環境整備が必要となるかを確認できるか。 ・一人で排泄動作を行うためには、後始末をどのように行うかまで確認できるか。
⑤他の福祉用具 (現在利用中の用具等)	・住環境整備により、トイレ内移動、衣服着脱、便器への立ち座り動作を行う際の一本杖の使用がどのようになるかを確認できるか。 ・住環境整備により、ポータブルトイレの利用機会がどう変化するかを確認できるか。

事例の解説例

- ・排泄は、自立が難しい状態になったとしても、家族や配偶者に安易に介助をお願いしたくない部分になります。トイレまでの移動に転倒の危険性が伴う場合や、歩くのが遅いため尿を漏らしてしまう場合にポータブルトイレを利用することもあります。一方で、寝室をトイレの近くに移動したり、動線に手すりを取りつけたり、トイレの環境整備を行うことによって、自宅トイレでの排泄が可能になることもあります。まずはトイレで排泄をしたい、自分自身で行いたいという利用者の気持ちを尊重しながら、可能な限り自立した排泄が行える環境整備を検討しましょう。
 - ・排泄は、トイレまで移動する、便器に着座できるように方向転換する、下衣を脱ぐ、便座に着座する、排泄後の後始末をする、便座から立ち上がる、下衣を戻す、手を洗うなど、複雑な動作を伴います。片麻痺のある利用者に対してトイレの環境整備を行う際は、麻痺の程度にもよりますが、後始末のために着座しながら体幹を傾けることが出来るかどうか、トイレトーパーホルダーはどの位置が使いやすいかなど、より細かくアセスメントを行う必要があります。利用者が実際に行う動作を確認しながら住環境整備を検討していく必要があることを理解しましょう。
- ※現場では今回のように「課題」に対する解決策の案について、それぞれの視点から一つでも不具合が見つかれば、解決策の案を追加・変更することになります。